

慢性活動性 EB ウイルス感染症（CAEBV）について

CAEBV とは

- CAEBV は EB ウイルスが原因の病気です。EB ウイルスはヘルペスウイルスの仲間、ごくありふれたウイルスです。日本人は5歳までに 5 割の人が、20 歳以上では 9 割以上の人が感染しています。
- EB ウイルスは通常、リンパ球の一種の B 細胞に感染し、生涯にわたって潜伏感染します。しかし、稀にリンパ球の T 細胞や NK 細胞に感染することがあり、その結果発症するのが CAEBV です。
- CAEBV は無治療ないし対症療法で軽快することもあります。が、根本的な治療をしない限り再燃を繰り返し、進行すると悪性リンパ腫や白血病に至る重篤な病気です。

CAEBV が疑われたら ⇒ 3 段階の診断

- ① 抗体検査：感染したかどうかを調べます。 ・ 健康保険適用
- ② DNA 定量検査：EB ウイルスが増えているかどうか、血液中の EB ウイルスの DNA 量で調べます。 ・ 保険適用になっておらず、1 回 2 万円程度の検査料は患者の自己負担（腫瘍マーカーとして使う場合、月 1 回の検査が必要）。
- ③ リンパ球の検査：EB ウイルスが増えている CAEBV の疑いが高くなったら、どの細胞に感染しているか（B 細胞か、T 細胞か、NK 細胞か）、リンパ球を使って調べます。一部の研究機関でしかできない特殊な検査で、費用は研究機関が負担しています。

CAEBV の治療法

EB ウイルスに感染することにより腫瘍の性質をもってしまった細胞を根絶やしにする必要がありますが、CAEBV には抗がん剤が効きづらいことが分かってきました。今のところ、この病気を完治させる化学療法は開発されていません。



造血幹細胞移植

近年になって骨髄移植、さい帯血移植、末梢血幹細胞移植などの造血幹細胞移植が、CAEBV を完治させる可能性がある治療法として行われるようになってきました。とくに、大阪府立母子保健総合医療センターの報告によると、例数はまだ少ないものの、移植前の化学療法を弱めた骨髄非破壊的移植を行った患者さんの 3 年後の生存率は 90%以上となっています。

CAEBV は、まだまだ医師の間でもきちんと認知されていないのが現状です。そのため、CAEBV だったとしても、正しく診断されず適切な治療を受けられていないケースもあると推察されます。CAEBV について正しく知ってもらい、患者さんが適切な治療を受けられるよう、医療体制の整備を求めていかなければなりません。